

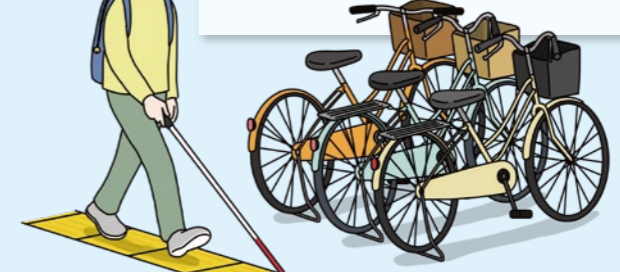
まちの中の情報は何のため?

まちの中には様々な工夫が隠れています。相手の立場を考えて伝え方を工夫しましょう。

まちの中

シーン①の場合

安全に歩けるよう、視覚障害者誘導用ブロックの上や周囲には物を置かないようにしましょう。



面白そう。行ってみようかな?

シーン③の場合

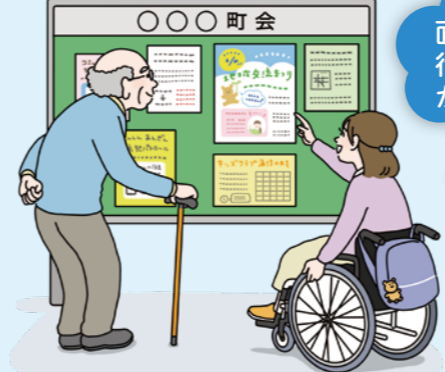
目の不自由な人は、音声案内、車の音、周りの人の足音や動きで信号の色を判断します。横断歩道を安心して渡るためには、音響式信号機やエスコートゾーン(*1)等が有効です。



信号機から音がする。渡ろう。

シーン②の場合

ロービジョン(弱視等)、車椅子の人、高齢者等に配慮し、手前まで近づいて見えるよう案内板を設置する必要があります。



お店

シーン⑦の場合

メニューに写真があると、日本語が分からないだけでなく、子どもや、文字で理解することが難しい人等にも分かりやすいです。

お料理の位置をお伝えしたいのですが、どうしたら良いですか?



シーン⑥の場合

目の不自由な人へ料理の位置を伝える方法として「クロックポジション」という時計の文字盤に例えて伝える方法があります。「6時にお箸」「3時に味噌汁」のように説明します。

この料理、美味しそう!



食品アレルギー品目
卵 小麦 落花生 エビ カニ

アイスコーヒーの方、お待たせしました。



シーン⑧の場合

音が鳴り、振動する呼び出しベルがあると、聞こえる人も、聞こえない人も呼び出しにすぐに気付いて便利です。

シーン⑪の場合

目の不自由な人には「あちら」「こちら」では伝わりません。具体的に伝えることが必要です。

トイレは左側へ進んで突き当たり左です。



ありがとうございます。

怪我をしているので、娘に代筆してもらってもいいですか?

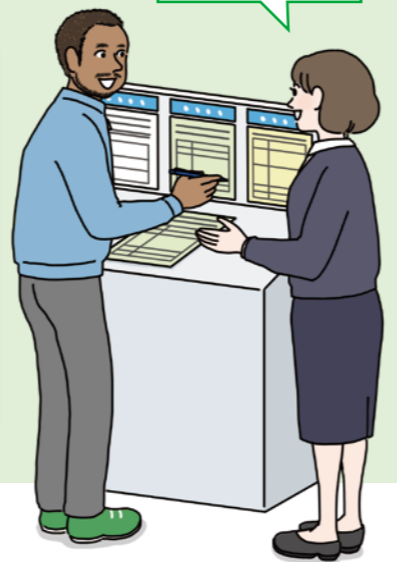


代筆可能です。(*2)

何かお困りですか?

シーン⑨・⑩の場合

自筆の署名が必要なとき、目の不自由な人、手の不自由な人等は困ります。代筆が可能か相談してみましょう。また、様々な方が訪れる窓口では、人的な対応が必要です。



窓口

シーン⑤の場合

駅等での緊急放送等が聞き取れない、聞こえない人がいるため、文字での表示も必要です。また、多言語放送、多言語表示も役立ちます。



英語の説明が流れてる。

モニター付きなら、聞こえない私でも使えるね。



なるほど。出発は30分後か。

シーン④の場合

係員がいない窓口には、画面越しでもコミュニケーションがとれるモニター付きインターホンが有効です。また、インターホンまでは視覚障害者誘導用ブロック等で誘導も必要です。

駅

工夫が大切なんだね。



*2 代筆についての具体的な対応方法は、各機関で定めていますので、事前にお問合せ下さい。

*1 エスコートゾーンとは、横断歩道内に設置されている突起で、視覚障害者が横断時に横断方向の手がかりとするものです。(参考:警視庁「エスコートゾーンの設置に関する指針」)